

イスラエルの人々②⑩

□イスラエルの人々の信仰の手本（失敗から学ぶ）

イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと淫らなことをし始めた。その娘たちが、自分たちの神々のいけにえの食事に招くと、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。
(民 25：1～2)

□前回までの振り返り

1. 荒野の旅も40年目。今回は、バラムの事件。イスラエルは、ヨルダン川の東、「モアブの草原」に宿営した。このとき、モアブの王はミディアン人と組んで、呪術者バラムを招き、イスラエルを呪わせようとした。主はバラムに呪いではなく、祝福のことばを語らせた。
2. 呪いをかけることに失敗したので、今度はミディアン人が策略を立て、それをモアブの娘たちに実行させた。これにより多くのイスラエル人がモアブの偶像の神バアル・ペオルを拝んでしまった。これが、ペオルの事件。今回は、モアブとミディアンが、イスラエルの一部を誘惑して自分たちの側に取り込み、イスラエルを内部分裂させようとした事件である。

□イスラエルの人々②⑩ ペオルの事件 民数記 25～26章、31章

1. モアブの娘たちがイスラエルの男たちを誘って淫らなことをし、食事に招き、偶像の神々を拝ませた（民 25：1～3）

25：1～3 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと淫らなことをし始めた。その娘たちが、自分たちの神々のいけにえの食事に民を招くと、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。こうしてイスラエルはバアル・ペオルとくびきをとともにした。すると、主の怒りがイスラエルに対して燃え上がった。

- 主の怒り・・・おそらく、疫病

2. 主の命令とモーセの命令（民 25：4～9）

25：4～5 主はモーセに言われた。「この民のかしらたちをみな捕らえて、主の前で、白日の下にさらし者にせよ。そうすれば、主の燃える怒りはイスラエルから離れ去る。」そこでモーセはイスラエルのさばき人たちに言った。「あなたがたは、それぞれ自分の配下でバアル・ペオルとくびきをとともにした者たちを殺せ。」

- イスラエルのさばき人たち・・・出 18：21～26。民の中からモーセが選ん

だ人たちで、選ぶ条件は、【神を恐れる、力のある人たち、不正の利を憎む誠実な人たち】であること。モーセは彼らを、「千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長」とし、民の上に「かしら」として立てた。いつもは彼らが民をさばき、難しい事件はモーセのところに持って来たが、小さな事件はみな彼ら自身でさばいた。

25：6 ちょうどそのとき、一人のイスラエル人の男がやって来た。彼は、モーセと、会見の天幕の入り口で泣いているイスラエルの全会衆の目の前で、一人のミディアン人の女を自分の兄弟たちに近づかせた。

- ちょうどそのとき・・・主の命令とモーセの命令を受けて、イスラエルの全会衆が会見の天幕の入り口で泣いていたそのとき。
- 自分の兄弟たちに近づかせた・・・一人の男が平然とミディアン人の女を宿営の中に連れて来た。しかも、モーセと、幕屋の入り口の前で泣いている全会衆の目の前を通って、である。

25：7～9 祭司アロンの子エルアザルの子 ピネハスはそれを見るや、会衆の中から立ち上がり、槍を手に取り、そのイスラエル人の男の後を追ってテントの奥の部屋に入り、イスラエル人の男とその女の二人を、腹を刺して殺した。

するとイスラエルの子らへの主の罰が終わった。この主の罰で死んだ者は、二万四千人であった。

- ピネハスの行動で主の罰が終わった。死んだ2万4千人は、バアル・ペオルを拝んだ民である。申命記でモーセは次のように回顧している。
申 4：3 あなたがたは、主がバアル・ペオルのことでなされたことを自分の目を見た。バアル・ペオルに従った者すべてを、あなたの神、主はあなたのうちから根絶やしにされたのである。しかし、あなたがたの神、主にすがってきたあなたがたはみな、今日生きている。
- なぜ、主の怒りがそこで止まり、民全体に及ばずにすんだのか。その理由が次に語られる。

3. ピネハスが主のねたみを自分のねたみとしたから（民 25：10～11）

10～11 節 主はモーセに告げられた。「祭司アロンの子エルアザルの子ピネハスは、イスラエルの子らに対するわたしの憤りを押しとどめた。彼がイスラエルの子らのただ中で、わたしのねたみを自分のねたみとしたからである。それでわたしは、わたしのねたみによって、イスラエルの子らを絶ち滅ぼすことはしなかった。

- わたしのねたみ・・・出 34：14～15 で、主はイスラエルの民に警告してお

られた。「あなたは、ほかの神を拝んではならない。主は、その名がねたみであり、ねたみの神であるから。あなたはその地の住民と契約を結ばないようにせよ。彼らは自分たちの神々と淫行をし、自分たちの神々にいけにえを献げ、あなたを招く。あなたは、そのいけにえを食べるようになる。」

4. 背後にいたのはミディアン人（民 25：14～18）

25：14～15 その殺されたイスラエル人の男は、すなわちミディアン人の女と一緒に殺された者の名は、シメオン人の一族の長サルの子ジムリであった。また殺されたミディアン人の女の名はツルの娘コズビであった。ツルはミディアンの父の家の諸氏族のかしらであった。

- シメオン人・・・シメオン族に属するイスラエル人という意味。イスラエル十二部族の中での順位でいえば、長子格のルベン族に次いで、二番目に位置する。そのシメオン族の族長の子と、ミディアン人の諸氏族のかしらの娘が、特別な関係になるということは、その関係を通して、イスラエルの有力部族の一つとミディアンが協力する、ひいては合体する、という構図になる。

25：16～18 主はモーセに告げられた。「ミディアン人を襲い、彼らを討て。彼らは巧妙に仕組んだ企みによって、ペオルの事件であなたがたを襲ったからだ。ペオルの事件の主の罰の日に殺された彼らの同族の女、ミディアンの族長の娘コズビの一件だ。」

5. 2回目の人口調査（民 26 章）

26：1～2 この主の罰の後のことであった。主はモーセと祭司アロンの子エルアザルに告げられた。

「イスラエルの全会衆について、一族ごとに、二十歳以上で、イスラエルで戦に出ることができる者すべての頭数を調べなさい。」

- 1 回目の調査は、エジプトの地を出て二年目の第二の月であった。そのとき登録された者の総数は、603,550 人であった（民 1：46）。
- 今回は、601,730 人（民 26：51）。この中で 1 回目のときからの生き残りは 2 人だけ。ユダ族のカレブとエフライム族のヨシュア（64～65 節）
- 1 回目と同様、レビ族は別に数えた（生後 1 か月以上の男子すべて、前回 22,000 人、今回 23,000 人）。

63～65 節 以上が、エリコをのぞむヨルダン川のほとりのモアブの草原で、モーセと祭司エルアザルがイスラエルの子らを登録したときに登録された者たちである。しかし、この中には、シナイの荒野でモーセと祭司アロンがイスラエルの子らを登録したときに登録された者は、一人もいなかった。それは主がかつて彼らについて「彼らは必ず荒野で死ぬ」と言われたからである。彼らのうち、ただエフネの子カレブとヌンの子ヨシュアのほかに、だれも残っていなかった。

6. 主の命令によりミディアン人への復讐：各部族から千人の兵、計1万2千人を出兵し、結果としてイスラエル側の戦死者はゼロ（民31章）

このとき、ミディアン人の王たちといっしょにいたバラムも、イスラエルの攻撃により死んだ。バラムはミディアン人に協力し、イスラエルに対する策略に加担していたと推測される。

主の命令

31：1～2 主はモーセに告げられた。「あなたは、イスラエルの子らのために、ミディアン人に復讐を果たせ。その後で、あなたは自分の民に加えられる。」

軍団の編成

31：3～4 そこでモーセは民に告げた。「あなたがたのうち、男たちは戦のために武装せよ。ミディアン人を襲って、ミディアン人に主の復讐をするためである。イスラエルのすべての部族から、部族ごとに千人を戦に送らねばならない。」

戦いの結果

31：7～8 彼らは主がモーセに命じられたとおりに、ミディアン人に戦いを挑み、その男子をすべて殺した。その殺された者のほかに、彼らはミディアンの王たち、すなわち、エウィ、レケム、ツル、フル、レバの5人のミディアンの王たちを殺した。また、ベオルの子バラムを剣で殺した。

軍団帰還後の報告

31：48～49 すると、軍団の指揮官たち、すなわち千人の長、百人の長たちがモーセのもとに進み出て、モーセに言った。「しもべどもは、部下の戦士たちの総数を数えました。私たちのうち一人も欠けていません。」

□本日の課題 イスラエルのかしらたち（さばき人たち）は、「千人の長、百人の長、五十人の長、十人の長」でした。民の数を60万人とすると、かしらたちはその内の何人でしょう。次の三つの中から選んでください。

- a. 12人 b. 約3,000人 c. 約76,000人